

The New York Times



規律正しい縦社会が好きなんです



寺口麻穂

ドギー パラダイス!

犬と人間の快適な生活

第24回

犬の擬人化

在米22年。かつては人間の専門家を目指し文化人類学を専攻。2001年からキャリアを変え、子供の頃からの夢であった「犬の専門家」に転身。地元のアニマル・シェルターでアダプション・カウンセリングやトレーニングに関わり、個人ではDoggie Project (www.doggieproject.com) というビジネスを設立。犬のトレーニングや問題行動解決サービスを提供している。愛犬ジュリエットが他界した今は、ニューヨークに移転して活躍中。ご意見・ご感想は：info@doggieproject.com



てらくちまほ

犬という動物は人間のことをじっくり観察し、理解し、行動するので、とかく飼い主は愛犬のことを同じ人間であるかのように扱ってしまふこと(擬人化)が多いようです。これははつきり言ってますが、犬にとって大迷惑です。犬は犬、人間とは違った特性を持ち、生きるために人間とは違った条件が必要なおことを覚えておく必要があります。「そんなこと当たり前」と言いながら、実際には出来ない人が多いので、今回は「陥りやすい擬人化」についてお話しします。

犬の「嫉妬」

ドッグパークなどで他の犬を可愛がると「あ、うちの犬嫉妬してる……」と思ったことがある人は多いのではないだろうか? また、多頭飼いをした際、新しくやってきた犬に気を取られ、先住犬への注意がおろそ

かになり、先住犬が拗ねたような態度をしたり、身体の不調を見せたりすることがあります。飼い主はそれを嫉妬からくる影響と思いがちですが、犬に嫉妬はありません。それは「嫉妬」という感情ではなく、今までの自分の位置が奪われることへの抵抗からくる反応です。パックス(群れ)で生きる犬にとって縦社会における自分の位置付けは、生活上、大変重要なことです。新しい犬が今まで自分が大切にしていた位置を脅かす時、先住犬はその脅威に反応しているのであって、飼い主の注目を独り占められて嫉妬という感情を示しているわけではありません。これを間違えて「嫉妬」と取ってしまう、その「嫉妬」を解くために必死に媚びるような行動をとってしまうことがあります。逆効果です。それではリーダーとしての飼い主の威厳もパックスの配列も崩れてしまいます。

犬も自由がほしい?

私の観察から、これは断然男性に多いのですが、愛犬の散歩にリードを使いたがらなかつたり、ドッグパークでない一般の公園でもリードを離して犬に自由に歩かせたりする人をよく見かけます。理由を尋ねると、「犬もい

つも自由でいたいはず。だからこうして放している方がいいに決まってる」というような答えが返ってきます。でも、それはあくまで人間の観点からの考え方。犬は規律正しい縦社会に住み、リーダーの言うことを守ることで自分の身の安全を感じ、安心して暮らせるのです。自由でいたいだろうと思うのはまさに擬人化。犬はリーダーからの指示を受け、群れで行動するのが普通なのです。同様に、「自由尊重」に似た「みんな平等に」という考えも、人間の観点によるものです。飼い主と愛犬は平等ではない。犬はそう思って暮らしています。そこに、飼い主が「なんでも一緒、なんでも公平に」として愛犬に自分と同じ権利を与えてしまつと、これもリーダーの威厳やパックスの配列を混乱に陥れることとなります。

3秒ルール

ほかによく聞く「擬人化」の例として、「あんな賢いところを見せたのに褒美をもらえなかつたから拗ねているのでは」とか「昨日厳しく叱り過ぎたのできつとまだ機嫌が悪いんだ」というような話を聞きます。しかし犬は、起こった出来事を人間のように数時間も数日も、また数カ月も引きずることはありません。反対に言えば、犬の行動には瞬時に対応しないと効果がないのです。褒めるにもしつけるにも「3秒以内」を念頭に置けば効果大。その機会を逃すとほとんど意味がないというのも人間とはまったく違う特性です。愛犬とのコミュニケーションにおいては「3秒ルール」をお忘れなく。犬が私たち人間をきちんと観察し理解しているように、私たち人間が犬は犬として観察、理解できれば、犬と人の関係はもっと尊いものになるはずです。

さて、次回で、なんとこの「ドギー・パラダイス」が始まって1年となります。1周年記念にふさわしい話題を考えていますので、どうぞお楽しみに。